



浅葱地羽衣模様帷子(染・繻) 江戸時代後期(19世紀) 丈171.0 裾62.5 (cm)

◆◆ 館蔵品紹介 ◆◆

今回は、暑い夏に向かい涼やかな帷子^{かたびら}(夏に着用する、麻の単衣仕立ての小袖)をご紹介します。

薄手で上質な麻地に、身頃の背面を大きな画面のように見立てた、片袖がかりの腰高模様です。

模様は、片袖から背・腰にかけて引き霞の中にスタンプを押し連ねたような松・桜・芦を配し、やがて裾に向かうにつれて、引き霞が流水へと変わり、岸边には松樹と象徴的な器物が置かれています。風

景には遠近感はありませんが、全体に風が通り抜けていくような、目に心地よい模様配置です。この風景に紛れるように、漁師の使う釣竿・魚籠^{びく}・腰蓑、そしてモチーフのポイントとなる羽衣が松の枝に掛けられています。この器物により、謡曲の「羽衣」が想起される仕掛けのある意匠となっています。

「羽衣」は、天女が遙か天より三保の松原へ舞い降り、羽衣を松の枝に掛けて休んでいました。そ

こへ通りかかった漁師が羽衣を見つけて取ってしまします。天女は羽衣がなければ、天へ帰れません。天女は困り、漁師に頼んで羽衣を返してもらいます。天女は喜び、羽衣の舞を舞いながら天へ帰っていきます。その後、漁師は豊になったという物語です。

皆様は「羽衣」に登場する天女の姿は、どのようなイメージをお持ちですか。例えば、法隆寺金堂の壁画に描かれた飛天^{ひてん}は、細長い天衣^{てんね}をしなやかにひるがえしながら空を漂っています。もしこの飛天をイメージしていたのならば、松の枝に掛けられた彼女の宇宙服ともいえる羽衣は、いわゆる一反木綿のような細長くしなやかな布が掛けられていたかもしれません。しかしこの帷子の羽衣模様は、雅楽の迦陵頻伽^{かりようびんが}を想起させる羽と、飛天の天衣と考えられる白い紐のような細い布がそえられています。

飛天とは、東洋における飛翔する天女のこと。首には瓔珞^{ようらく}をつけ、肩には天衣をひるがえし、ゆるやかに裳^もを纏^{まと}い、虚空を飛んだ姿で描かれています。また迦陵頻伽とは、上半身は翼をもつ菩薩形で下半身は鳥の姿をとり、仏教における想像上の美しい鳥です。飛天も迦陵頻伽も共に、極楽浄土に住み、如来の教えをたたえ、あるいは供養する存在として重視されています。日本では、経箱の装飾文様や仏堂内部の空間に広がりを与え、かつ荘厳として表されています。また、浄土教信仰の普及とともに、理想郷とも言える極楽浄土を描いた「阿弥陀浄土変相」には、軽やかに天衣をひるがえした飛天、あるいは迦陵頻伽が美しい羽をなびかせ浮遊する姿が描かれています。

憧れの地であるはるか極楽浄土に住む、飛天と迦陵頻伽が合体した美しい天女が、天より舞い降りた「羽衣」の天女のイメージに、いつしか定着したのでしょう。大徳寺の金毛閣の天井に描かれた、長谷川等伯筆の「迦陵頻伽天井画」は、姿は迦陵頻伽で手に蓮の花を持ち、肩には何枚もの天衣を掛け、微笑みながら優雅に浮遊しています。また、「羽衣」の伝説を描いた錦絵に、歌川広重・豊国の「双筆五十三次 江尻」があり、富士山をバックに飛翔する天女が描かれています。この天女の羽衣は、飛天の天衣と迦陵頻伽の羽がまさに合体したような形で描かれています。

さて、帷子の加飾技法は、防染糊により白く染め抜き、優しく流麗な描線の染め上がりです。そこに紅の濃淡や萌葱・金糸などの刺繍が、まるで唐織

さながらに染めに品格と華やかさをそえています。それは、刺繍の高度な技に裏打ちされているからです。特に、羽衣の縫い技は一樣ではなく、模様部分を平織により地を埋め、その上に上刺^{うわざし}により金糸で羽根の割付模様が加えられています。風になびく尾羽根も、一針一針の卓越した技の積み重ねによるものです。

図1は、徳川御三家の一つ、紀州徳川家の姫君の小袖模様を記した肉筆雛形の一枚です。図案は墨描きにより、小袖模様が丹念に描き込まれています。これは、江戸時代末期の武家女性の小袖模様の特色を伝えてくれる貴重な資料です。

今回ご紹介の帷子は、この雛形の模様と類似しており、この帷子は、江戸時代後期頃の武家女性が着用したものと考えられます。このような一連の模様を御所解模様^{ごしよどきもよう}といい、どことも知られぬ風景を表し、その中に象徴的なモチーフを隠すように配置して、当時彼女たちには馴染み深い王朝文学や能楽の内容を示す模様のことです。

江戸時代後期頃の武家女性は、町方とは異なり流行にとらわれない伝統的な形式を守る服飾様式を作り出しました。加飾技法もあくまでも保守的な立場で、染めや刺繍の技法に固執していたようです。長い時間をかけて洗練の度を高めたそれらの小袖意匠には、隙のない凛然とした気品がそなわり、武家女性の格式が感じられます。

(水上 嘉代子)

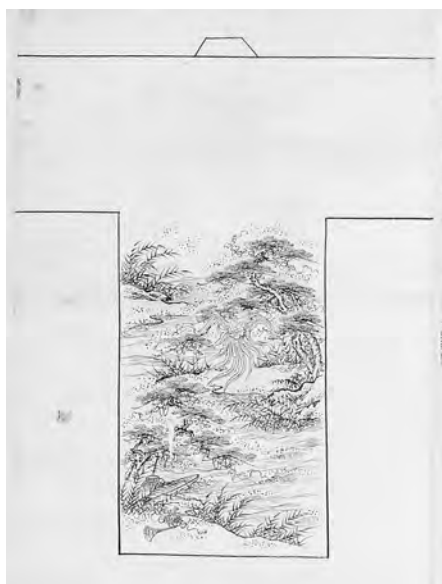


図1.『衣裳図録 紀州徳川家旧蔵』文化学園大学図書館蔵

ひさびさの夏座敷の室礼

久保木 彰一

昨秋の特別展「遠山元一と近代和風建築」開催にさいして、建築図面や写真資料だけでは寂しからうというので、普段は見る事が出来ない、話題性のあるような呼びものはないかと悩んだすえ、遠山邸の建具を夏仕様にすることを思いついた。

土蔵の奥、板藏前にシートに包んで立て掛けられた建具の山があることは知っていた。かなりの数であり、1枚1枚を引き出して調べたことはなかったのである。

建具替えの記憶のある職員はいたが、入れたところを確かに見たものは他にいなかった。過去の記録を探てみると、なんと昭和59年の8月に行った時の記録写真が出てきた。29年も前のことである。

さて、そんな前に仕舞われた建具が、本当に今でも使えるのであろうか、調べてみなければ始まらない。障子の貼り替えをお願いしていた川越の安藤表装店に協力してもらって、それらの状態と内容をチェックすると、御簾や簾戸のすだれ部分に破損やカビなどの害はなかった。葭に微細な穴を発見したが、虫が喰ったカスはなく、30年の保管中の傷ではなさそうである。ただし、新聞とシートで被った簾戸は、箱入りの御簾と違って通気を遮断していなかったため、表面が薄膜のかかったような感じであり、安藤さんと邸宅掃除の小久保さんに全面をきれいに拭きあげていただいた。

展覧会のオープン前の8月、遠山邸に入れた夏建具は、御簾32巻、簾戸38枚となった。

東棟表玄関・寄付	簾戸	14枚
囲炉裏の間	簾戸	8枚
(東北側8枚は障子けんどん外し)		
中棟大広間・次の間	御簾	26巻
西棟水屋	簾戸	2枚
客間	御簾	2巻
茶室	簾戸	6枚
美以室	御簾	4巻
次の間	簾戸	4枚
玄関	簾戸	4枚



撮影…新良太氏

大広間



入側廊下東より次の間・大広間



西入側廊下より逆方向

「遠山元一と近代和風建築」展におけるもう一つの見どころとして売り出したのが、昭和11年の邸宅竣工披露会における座敷室礼の再現であった。展覧会期中の日曜日限定の8日間、遠山元一が蒐集した書画茶道具を、当時の会記通りに、遠山邸の床の間と点前座に飾りつけた。

西棟奥の美以室の床には重要文化財「佐竹本三十六歌仙絵」を掛けるので、ガラスと障子入外廻りの建具を外して、外気を通す簾戸に替えるのは、室内の温湿度を乱しかねない。西棟の簾戸は室内の間仕切り建具だけとし、中棟2階の座敷も非公開放なので、この時は除外した。結局、40枚近くの簾戸を残した。

昨年にこれらの夏建具をご覧いただいた方は、普段の明かり障子の建具と襖を立てた大広間、次の間の雰囲気とは、ガラッと変わったことに驚かれたことでしょう。一瞬、平安時代の寝殿造りにタイムスリップしたような、もちろん書院造りであって様式が違うとはいえ、雅な深窓に迷いこんだかのように感じられませんでしたか。実は、私にとっても初めての体験でした。ちょうどNHKの大河ドラマで平清盛が太政大臣に上る放送があり、イメージが重なったようだ。

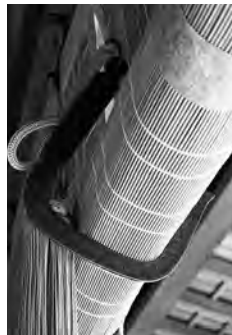
御簾と簾戸のすだれの隙間より風を通して涼を得るのだが、同時に若松が描かれた4枚の襖と、欄間小障子も取り払うので、仕切りのない開放的な空間が生まれ、入側廊下との通気もいっそう自由になる。さらに、座敷内におれば、夏のきびしい陽ざしを反射するまぶしい庭木や芝の照りを、すだれのスリットは和らげてくれるのである。見た目からも涼しさを感じられる仕掛けだ。末ひろがりの御簾の隙も自然で好ましい。



欄間に七宝透しの建具も入る

前頁2枚目の写真では、中ほどの御簾を巻き上げていますが、すべてを降ろせば、明るい疊廊下側から御簾越しに、座敷内の様子はうかがえなくなる。外からは白けたすだれを目にするばかりで、暗い部屋内はまさにやんごとなきお方がいらっしゃるご様子になる。

京都の^{すだれし}簾師に注文したと思われる半間幅のこの御簾は、絹茶地唐草文織の縁に、^{あげまき}総角結びの房と家紋入りの鉤が付く。皮を除いて磨いた径1mm+の極細丸竹ひごは、繋ぎ目を中央の縁帯下に隠して節跡を見せず、竹ではないみたいだ。



ついで、表玄関から次々に登場してくる簾戸は、書院風表玄関、民家風囲炉裏の間、数寄屋座敷という異なる雰囲気に応じて、それぞれの意匠と材質が練られたらしい。うっかりすると微妙な変化を見落としそうだが、おまな建具の仕様はこのようである。

表玄関外側	極細角竹ひご
同 寄付廊下側	細葎
囲炉裏の間	蒲 腰に無双窓入
西棟水屋前	節有葎
同 茶室	皮付き近江葎 下図
同 次の間	厚1mm幅5mmの檜薄板
同 玄関内側	萩 下図



簾戸の右側は瓦敷きの土間

材を虫メガネでじっくりと調べても、なかなか特定するのは至難だ。困り果てて、プロの方に教示を仰ぐと、新潟県新発田市にある高橋建具製作所に問い合わせしてみた。ありがたいことに、会期中に来館して見ていただき、それぞれの素材と仕様をご教示いただいた。珍しい簾戸に感激しておられた。



来年度以降の建具替えの計画は未定だが、今夏7月より9月の時期に、もう一度あの爽やかな座敷を楽しんでいただけることになった。関東では格式のある旧家や料亭を尋ねなければ見かけなくなった夏の室礼を、是非ご覧いただきたい。京都の夏座敷とはどこか違う、飾り過ぎない、陰影のすっきりとした室礼とその透明感にひたっていただけると存じます。

●●●「暮らしと建築の美—遠山邸研究会」セミナーのご案内●●●



伊東 豊雄 先生

今春の3月16日に第6回のセミナーを開催しました。

建築家 伊東豊雄先生に「地域の力がこれからの日本をつくる」の題にてご講演をしていただきました。建築は町を元気にすることができるといふ話から始められ、これまでの国内外の作品と、東日本大震災後に被災者の集会所「みんなの家」建設による支援活動について、熱く語っていただきました。

翌17日に、建築界のノーベル賞ともいふべきプリツカー賞を伊東先生が受賞されたことが伝わりました。講演を聞かれた方々、講座を企画した遠山記念館にとっても、講演の印象を増幅させる大変に喜ばしいご受賞でした。この場からも、ご祝辞を申し上げます。おめでとうございました。

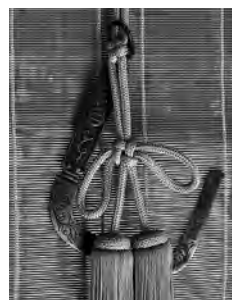
遠山邸研究会の次回講演会ですが、しばらく充電期間をいただき、来春から第2シリーズの開催にむけ準備中です。遠山記念館たよりの次号で詳しく予定をお伝えします。ご期待ください。



遠山邸で夏の風情を味わう

7月中旬から9月下旬まで

昭和初期そのままの夏の建具は、自然の風を家の中へ通わせるエコでやさしい暮らしの室礼でした。和の空間が広がって、いっそう爽やかに感じられます。



囲炉裏の間 大広間付書院
西棟次の間 御簾の房と鉤

..... これからの展示・催し物

岡澤コレクション受贈記念

●虹をまとう グアテマラの染織

6月15日(土)～7月31日(水)

昨年ご寄贈をいただいた、元金沢大学教授・岡澤孝雄氏のコレクションを中心に、現代グアテマラの民族衣装、約100点を展示いたします。出品する染織品はいずれも豊かな色彩と伝統文様で装飾されており、「グアテマラ・レインボー」という美称にふさわしいものばかりです。村ごとに異なるデザインの美しい衣装の数々を通して、グアテマラ先住民の染織文化がなぜ生まれ、守られ、そして変化していくのかを考えてみたいと思います。

〈主な展示品〉

- 太陽・花鳥文様両面刺繍貫頭衣 サン・マテオ・イシュタタン チェフ族 20世紀 ①
- 鳥・幾何文様縫取織貫頭衣 ナワラ キチュー族 20世紀 ②
- 鳥・抽象文様縫取織貫頭衣 テクパン・グアテマラ カクチケル族 ③

その他、女性用腰布、肩掛、万能布、帯、頭飾り帯、男性用のシャツ、ズボン、肩掛バッグなど。



①



②



③

●秋風の色～

9月1日(日)～10月20日(日)

6月発行のたよりにて、9月の展観を予告するので、季節上は大先取りになりますが、右のポスターに使った秋野蒔絵手箱の意匠も、ひとあし早く秋を感じ取りたいというもの。季節の移ろいや気配、微妙な変化を読み取る日本人らしい感覚が、鎌倉時代の蒔絵に表されています。

そして図の蓋表ばかりか、側面にまで入れられた漢字13文字は、平安中期の詩人 源英明の詩で、「池冷やかにして水に三伏の夏なし 松高うして風に一声の秋あり」と読み下し、夏の末の池辺にある松かげでは、爽やかな秋の風が感じられます、という内容です。

ところで、和歌や俳句で秋風をうたった歌はたくさんありますが、秋風のことを「色なき風」ともいったように、平安の王朝人は秋の風を白色、無色と感じていたようです。澄みきった大気の中を渡っていく風は、同じく透明感があり、時に、もの寂しさを伴いました。

さて、美術館でご覧いただく秋の書画や工芸に、どんな色を感じられますでしょうか。

白色とは異なり、穏やかな色彩、もっと鮮やかな色を見いだされるかも知れません。



新講座「お座敷美術講座」のご案内

秋の風情が少しずつ深まってくるころ、遠山邸の座敷にて、美術の鑑賞講座を開くことにしました。名付けてお座敷美術講座とし、各回テーマを替えて楽しんでいただこうと思います。落ち着いた雰囲気の間の上で、普段の美術館の展示とは違った、美術との出会いを作ってまいります。

参加費：300円

お申込：電話 049-297-0007 にてご予約ください。

時間：各回開催時間より1時間程度を予定しています。

9月23日(月・秋分の日) 午後1時半～ 「友禅染の魅力」

学芸員 水上 嘉代子 担当

江戸時代のファッションブック『友禅ひいなかた』を読みながら、館蔵屈指の一領である(右図部分)江戸時代中期の「四季花東に文字入り模様小袖」をじっくりとご覧いただきます。

友禅染め技法の特徴である多彩な色挿しと、繊細な糸目糊によって生み出される線の美しさを実感していただきます。



10月14日(月・体育の日) 午後1時半～ 「床飾りの成り立ち」

学芸員 久保木 彰一 担当

床の間は、書画工芸の品々を飾るための場として室町時代に生まれました。ゆったりとした空間に絵画や書の掛け軸がかけられ、一段上の床には花などが飾られます。

飾り方もあわせて、その誕生の様子をお話します。

掛け軸の内容は、当日のお楽しみに。むずかしい講義ではありませんので、気軽にご参加ください。



● ホームページ、リニューアル公開! ● ● ● ● ● ● ● ●

これまで以上にお客様に使いやすく、見やすくご利用いただけますよう、ホームページの構成とデザインの全面リニューアルを行いました。

是非ご利用ください。

としお
石井莊男コレクション受贈記念

●「土人形」展 10月26日(土)～12月20日(金)

昨年度、さいたま市在住で郷土人形研究家の石井莊男氏より土人形と張子人形のコレクションが一括寄贈されました。氏のコレクションは東北から九州まで全国各地で製作されたものです。

土人形は土を、張子人形は紙を材料にした「庶民の人形」で、江戸時代後半頃から、人々の生活や風土などを反映しながら作られてきました。題材は雛人形、天神様をはじめ、その他庶民に親しまれたあらゆるものが形になっています。

本展では、土人形を中心に各地の特徴をご紹介しますながら、その全貌をお披露目いたします。併せて、石井コレクションの中でも特に数が多く、姿のバリエーションが豊かな天神様や歌舞伎物など、題材にもスポットをあてていきます。素朴な造形に見る美しさや庶民ならではの発想の自由さ、面白さなどをぜひお楽しみください。



三河土人形「唐子」

●ギャラリートークのお知らせ

11月16日(土) 午後1時30分～



としお
石井 莊男 氏

郷土人形研究家、石井莊男氏によるギャラリートークを行います。

全国各地を訪ねながら、調査や収集をはじめられて60余年、作品を目の前にして、収集されたご本人ならではのお話など、郷土人形の魅力をたっぷりとお楽しみください。



三次土人形「女立ち姿」

●手回し蓄音機によるSPレコード鑑賞会 Part 13

11月4日(月・祝) 午後1時30分～2時30分



場所：本館大広間 先着50名様 入館料のみ

和風建築の粋を集めて昭和初期に建てられた、遠山邸の大広間で、SPレコードの鑑賞会を行います。貴重な記録の中から、クラシック曲からはソプラノやテノールを中心とした伝説的な歌手の歌声や、ラフマニノフ自作自演のピアノ曲などを、その他では、シャンソンや童謡、唱歌なども聴く予定です。電気を一切使わず再生されるノスタルジックな音をお楽しみください。なお、ご自宅に、SPレコードをお持ちの方は、当日お持ち頂ければ、飛び入り再生も受け付けます。

..... 平成24年度 新収蔵品

つぎの作品のご寄贈をいただき、ありがとうございました。ご紹介申し上げます。

●岡澤 孝雄 様(石川県金沢市)

- ・現代グアテマラ民族衣装 102点
- ・ご寄贈染織品と村の写真入CD 4枚



たてしまし
経編地鳥・動物文様縫取織肩掛
ナワラ キチュー族 20世紀



ぬいとりおりかんとうい
人物・動物・花鳥文様縫取織貫頭衣
ネバフ イシル族 20世紀

●石井 ^{としお} 莊男 様(さいたま市)

- ・土人形・張子人形他 608点



三次土人形「天神」

三春張子人形
「女立ち姿」



三河土人形「加藤清正」

..... 平成24年度 催事報告

●催物、ワークショップ、ギャラリートーク等

2012年 5月 5日(土) 手回し蓄音機によるSPレコード鑑賞会 Part 10

10月14日(日) 「中学生のための体験茶会」

遠山記念館の庭園にある離れの茶室で、体験茶会を行いました。今回は博物館実習に来ていた大学生の方も同席し、一緒に席入りの仕方や薄茶のいただき方を学びました。

11月 3日(土) 手回し蓄音機によるSPレコード鑑賞会 Part 11

11月 4日(日) 「古楽器演奏会」

古楽器奏者の大滝眞氏となかやまはるみ氏をお迎えし、遠山邸大広間にて演奏会を催しました。ヴィオラ・ダ・ガンバをはじめ、ゴシックハーブやギターも交え、「ねむれ、ねむれ緑の丘に(バスク地方の子守歌)」、「兵士の決意(ヒューム)」など12曲が演奏されました。

●●● 平成24年度 催事報告 ●●●

2013年 1月19日(土) 遠山記念館でお香会

東福門院尊祖とする最も古式を守った流儀である、徳川譜代大名安藤対馬守家に伝わる香道・安藤家御家流による、お香の会を遠山記念館の大広間で行いました。

2月 9日(土) 親子で楽しむギャラリートーク&ワークショップ

(共催 川島町教育委員会「地域子ども教室」)

「投扇興遊びと展示解説」

2月16日(土) ふるさと歴史講座(共催 川島町教育委員会)

「かな文字の歴史と読み解き」(講座)

「雛の世界」展と遠山邸の解説、案内

2月24日(日)・3月2日(土)

ご当地グルメとコラボレーション!

遠山邸2階特別公開と郷土料理「呉汁」を堪能する会

2月26日(火)~3月1日(金)・3月3日(日) 雛祭りの日

毎日2回開催 「雛の世界」展と遠山邸の解説案内

●投扇興を楽しむ会

毎月1回開催 計12回開催

「遠山連」(投扇興愛好会)毎月第2日曜日 計12回開催

利用案内

入館料 大人 700円 学生 500円

中学生以下は無料

(団体20名以上は2割引となります)

交通 ●東武東上線・J R 埼京線▶川越駅

●西武新宿線▶本川越駅

●J R 高崎線▶桶川駅

川越駅~桶川駅間の東武バスで牛ヶ谷戸下車、徒歩15分

●開館 午前10:00~午後4:30 (入館は4:00まで)

●休館 月曜日 (祝日の場合は開館、翌火曜日)

年末年始

●美術館のみ展示替え休館

8月1日~31日、10月22日~25日

●詳しい展覧会情報は下記でご覧いただけます。

URL <http://www.e-kinenkan.com>



遠山記念館だより 第45号

2013年6月 発行

編集発行 財団法人遠山記念館

編集担当 小野 恵

〒350-0128 埼玉県比企郡川島町白井沼675

TEL 049-297-0007

FAX 049-297-6951